



「夜」丁玲 著

二玄社『中国現代文学珠玉選[小説3]』より

講師:永井 英美 氏 (立命館孔子学院中国語講師)

読書会

10/10 土

12:30~14:30

立命館孔子学院図書室

中国の小説に興味がある方、
本を読むのが好きな方、
一緒に「読書会」をしませんか。

- 感想を話し合いますので、なるべく事前に作品を読んでご参加ください。
- 前日まで、もしくは当日の開始30分以上前にお越しください、事務局で作品のコピーをお渡してきます。

●テキスト・作品●

現在、二玄社『中国現代文学珠玉選[小説3]』所収の作品を順に読んでいます。テキスト購入費は参加者負担ですが、現在絶版となっておりますので、事務局で作品のコピーをお渡してきます。図書館や古書をご利用いただいても結構です。

●お申込み方法●

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくはメールにてご連絡下さい。

●お申込み・お問合せ先●

立命館孔子学院

〒603-857

京都市北区等持院北町56-1

立命館大学 アカデミア立命21内

TEL:075-465-8426

FAX:075-465-8429

Mail:koza@st.ritsume.ac.jp

http://www.ritsume.ac.jp/confucius/



●作品冒頭部分●

羊の群はもう庭の中に追い込まれたが、趙家の上の娘はまだ自分のヤオトン(窰洞)の入り口に坐って、靴の甲を縫っていた。何かで首を廻すと、両肩の上に垂れている耳環が激しく揺れる。羊の群れは押し合いながら柵の中に走り込んで行く。外に出ていなかった数頭の子羊は、跳ねながら片隅に押しやられて、鳴き声をあげた。

こちら側のヤオトンの狭い炕(カン)に集まっていた選挙委員会の委員数名が、つぎつぎに窓から跳び出してきた。会議をおえたばかりなのだが、まだ何か話し合っている。靴の甲を縫っていた清子はまたこちらに顔を向けて、からみつくような、また軽蔑を含んでいるようでもある笑顔を浮かべた――

●作者紹介●

丁玲(1904-1986) 湖南省臨澧出身。本名は蒋冰之。幼時に父を失い、教師として自立した母に育てられる。上海の女学校、上海大学に学ぶが中退、この頃無政府主義の影響を受ける。後北京に出て、27年短編「夢珂」を『小説月報』に発表したのを最初に創作活動を開始、特に「莎菲女士的日記」で若い女性の心理を大胆に書いて注目された。やがて左翼化し、30年左翼家連盟に加盟。左連機関誌『北斗』の主編を務める。32年中国共産党入党、33年国民党特務に上海から南京に拉致され、監禁・軟禁。36年南京を離れて延安に入り、文化宣伝工作に従事、「夜」など新旧入り交じった延安地区の現実を個性ある短編に書いた。人民共和國成立後は、文芸界の要職に就くが、57年「反右派闘争」が始まると、「右派」とされた。黒龍江省北部の荒地に下放されたり、北京付近で投獄された時期もあったが、「文化大革命」後の79年に名誉回復、拉致事件の前後を語る「魍魎世界」の他、少なくない作品を残した。